

キッズ・モニターアンケート「子どもへの支援について」実施報告

健康福祉部子ども・家庭局子どもの育ち推進課

このたび「子どもへの支援」についてのアンケートを実施しましたので、その結果をお知らせします。アンケートにご協力くださったキッズ・モニターの皆さん、ありがとうございました。

【アンケート概要】

1 アンケート実施期間

平成24年9月14日から平成24年9月30日まで

2 意見募集の結果

対象者数 382人

回答者数 230人（回答率60.2%）

【アンケート結果】

Q1 あなたの年代について

あなたの年代にあてはまるものをえらんでください。

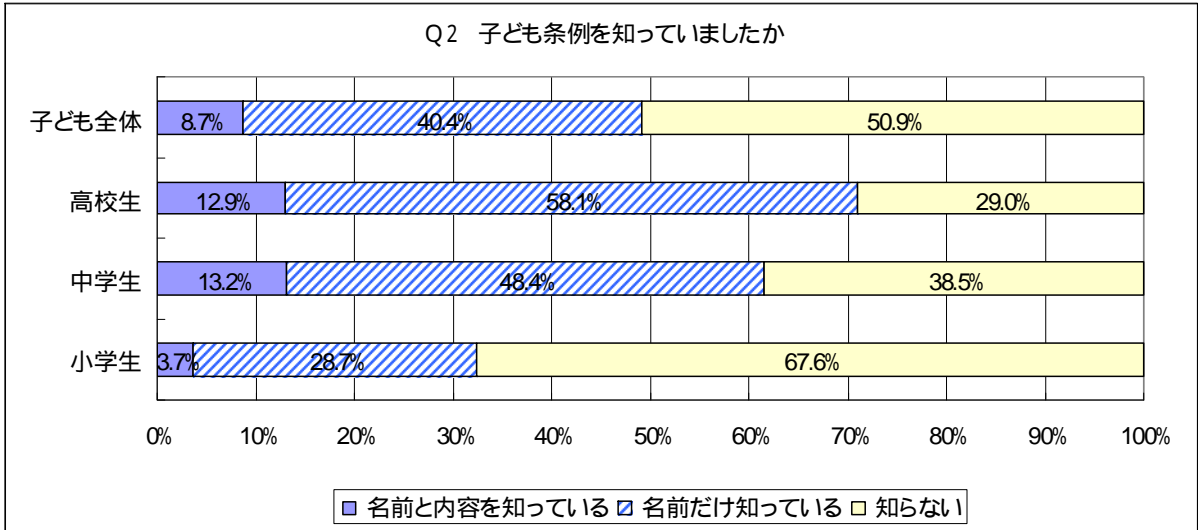
回答者の属性は、小学生108人（47.0%）、中学生91人（39.6%）、高校生31人（13.5%）でした。

Q2 子ども条例

あなたは、「三重県子ども条例」を知っていましたか。条例とは、三重県に住む人みんなの約束ごとです。

条例について「名前と内容を知っている」のは20人（8.7%）、「名前だけ知っている」が93人（40.4%）あわせて49.1%の方が、「知っている」と回答しました。「知らない」人が半数以上の50.9%を占めていますので、今後も条例を皆さんに知ってもらう取り組みが必要です。

校種別に見てみると、高校生は、「名前と内容を知っている」、「名前だけ知っている」を合わせて71%で、中学生、小学生と学年が小さくなるにつれて認知率は下がって、それぞれ61.6%、32.4%となりました。

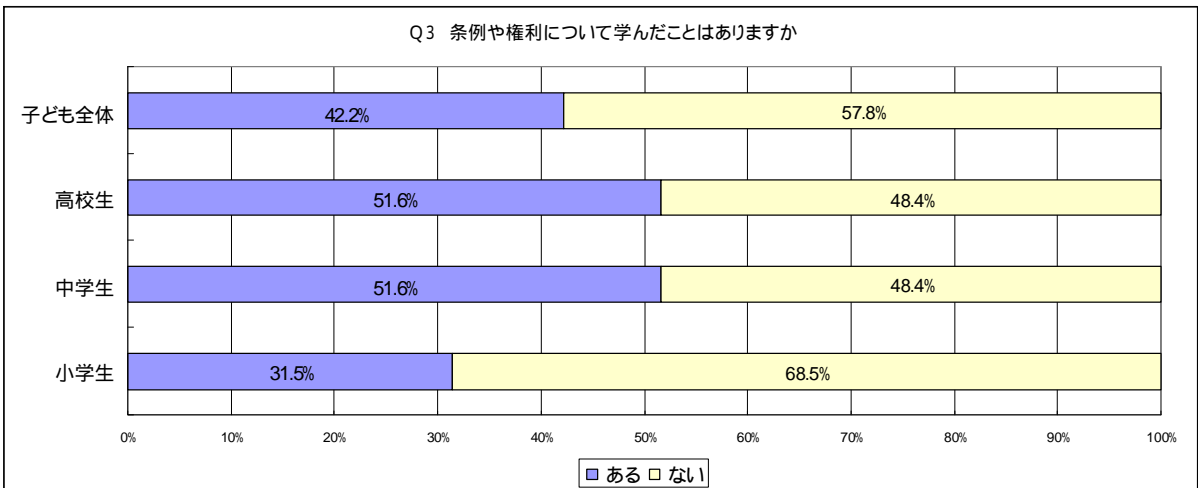


Q3 権利の学びの有無

あなたは、「子ども条例」や子どもの権利について、聞いたり、学んだりしたことはありますか。子どもの権利とは、子どもが誰でも持っているもので、人間として生きていくのに大切で当たり前なこと（生きられること、守られること、育つこと、参加すること）をいいます。

権利について学んだことが「ある」人は97人(42.2%)、「ない」人は133人(57.8%)でした。

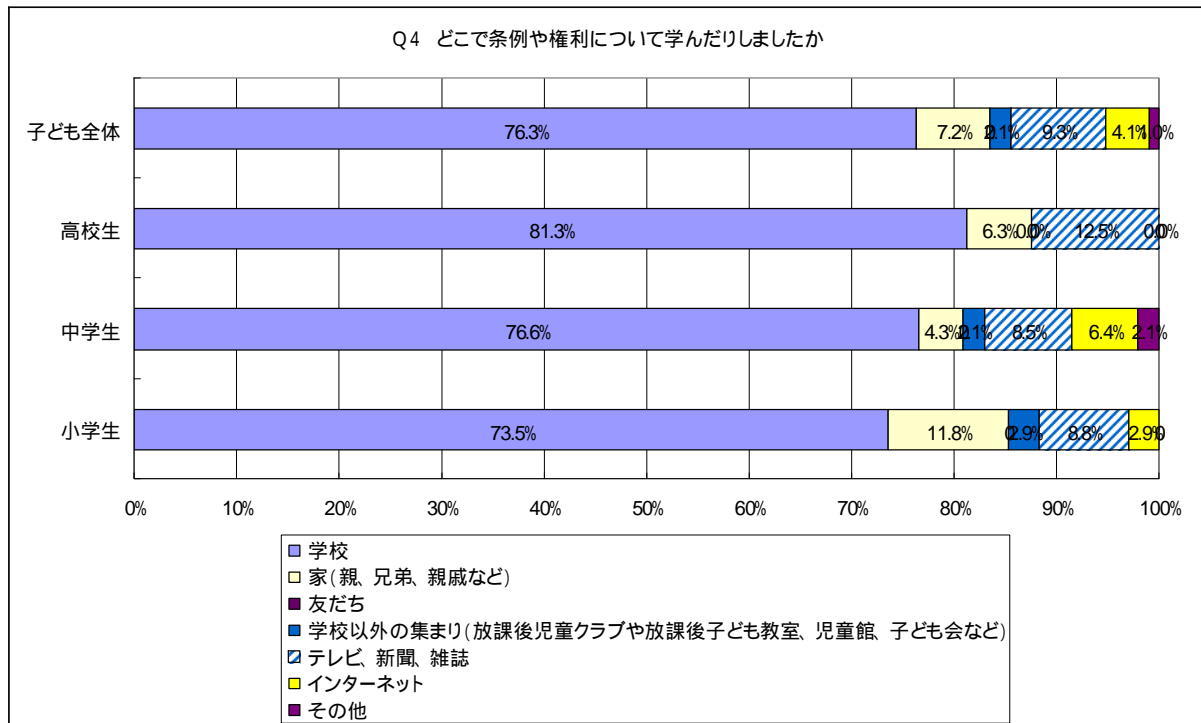
校種別に見てみると、高校生と中学生が51.6%、小学生は31.5%と低い割合となりました。「基本的人権」や「権利」という言葉は、おおよそ中学校で習いますので、小学生との差がでていると考えられます。



Q4 権利の学びの機会

Q3で「ある」と答えた人にききます。どこで聞いたり学んだりしましたか。

権利を学んだきっかけは、「学校で」がもっとも多く76.3%、ほかの機会は大変少ない結果でした。

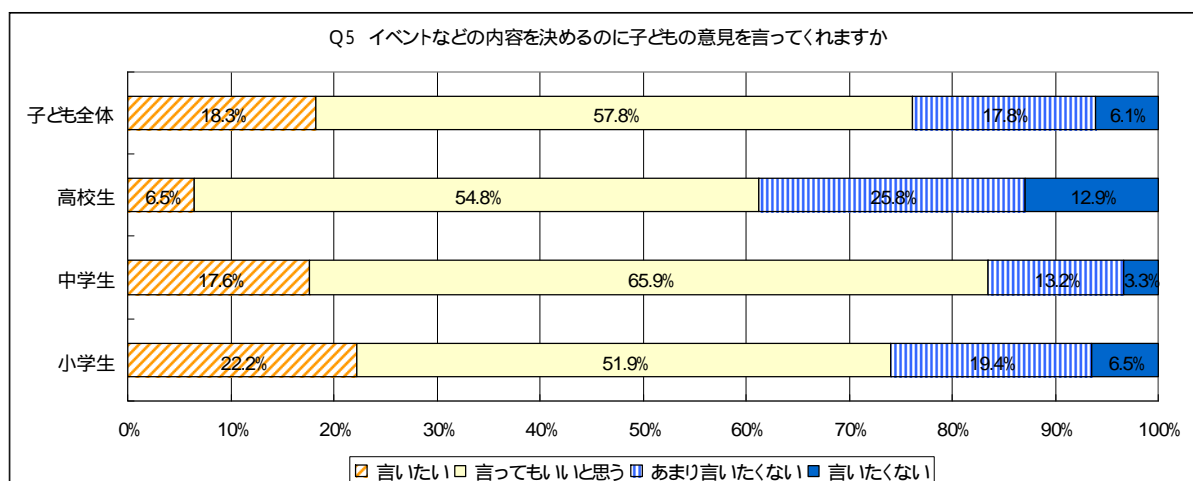


Q5 子どもの意見

たとえば「子どもフェスティバル」のような子どものためのイベントの内容を決めるのに、子どもの意見を募集したら、あなたは意見を言ってくれますか。

意見を「言いたい」人42人(18.3%)、「言ってもいい」人133人(57.8%)、合計175人(76.1%)となり、みなさんの参加意欲の高さがわかりました。

校種別にみると、「言いたい」と積極的な人は、小学生が最も高く22.2%、年齢が上がるにつれて中学生17.6%、高校生6.5%と低くなっていきます。「言ってもいいと思う」人は、中学生が最も多く65.9%。次に高校生54.8%、小学生51.9%となります。「言いたい」「言ってもいい」合わせると、中学生が最も参加意欲があることがわかりました。

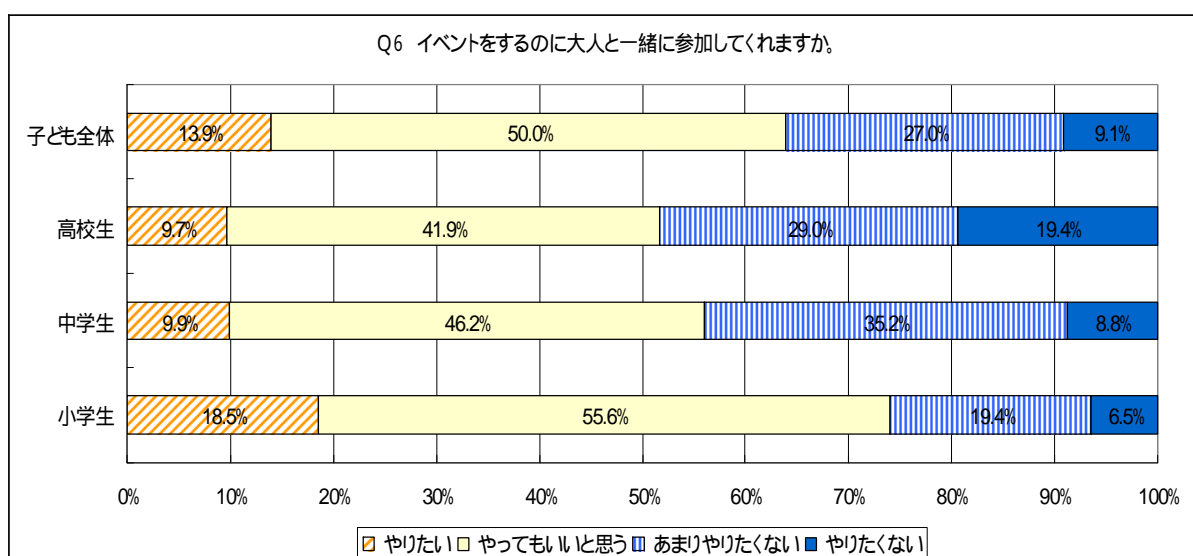


Q6 子どもの参加

たとえば「子どもフェスティバル」のような子どものためのイベントをするときに、大人といっしょに考えようよ！とよびかけたら、いっしょに参加してくれますか。

大人といっしょに「やりたい」人32人(13.9%)、「やっていいと思う」人115人(50.0%) 合計147人(63.9%)となり、みなさんの参加意欲が高いことがわかりました。

前質問と同様に、「やりたい」と思う人は、小学生が最も多い割合となっており、学年があがるにつれて低くなっていきます。また、「やっていいと思う」も同様の変化でした。高校生になると「やりたい」人、「やっていいと思う人」どちらも、低くなっています。



Q7 自発的な活動1

あなたが「やりたい」と思って、ほかの人たちといっしょに取り組む地域での活動（たとえばスポーツ、子ども会、ボランティア、清掃活動、太鼓など）に参加したことはありますか。

地域で自発的な活動に参加したことがある人は、152人（66.1%）でした。たくさんの方が、活躍していることがわかります。

Q8 自発的な活動2

どんな活動ですか。（自由記述）

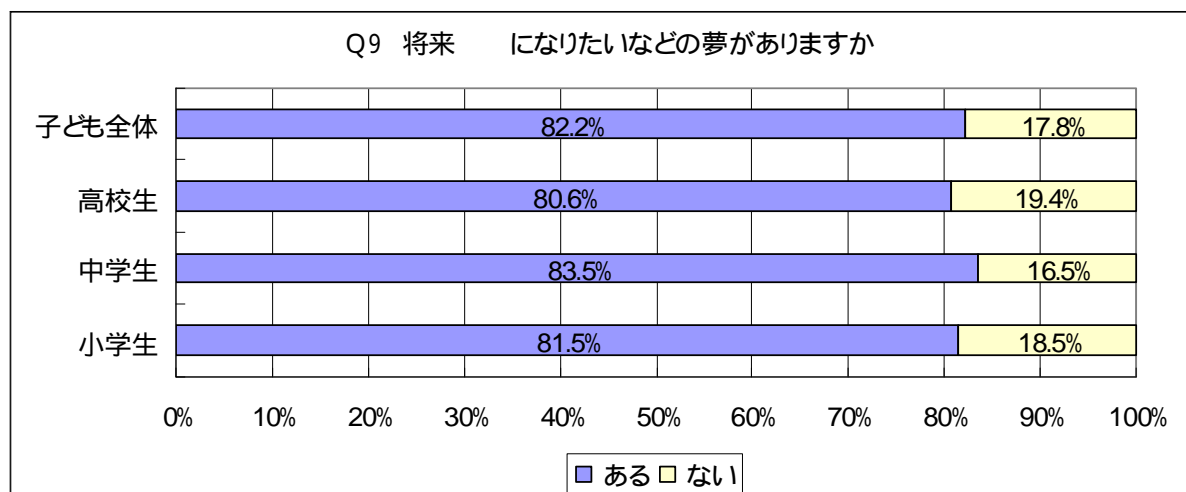
Q7で「ある」と答えた人152人が参加した活動のうち、最も多かったのは、子ども会の活動です。次に多かったのは、地域での清掃活動でした。ほかにも、スポーツクラブに参加していたり、お祭りやイベントに参加したりと、地域で異年齢の子どもや大人との交流をしている様子が見えます。

校種別でも同様の傾向があり、小学生と中学生では、子ども会活動が最多で、次に清掃活動。高校生では清掃活動が最多でつぎに子ども会活動でした。

Q9 あなたの夢

あなたには「将来 になりたい、 をしたい」などの夢がありますか。

「ある」と答えた人は189人の82.2%でした。校種別に見ても、どれも80%を超える高い割合で、夢を持っていることがわかりました。



Q10 あいさつ

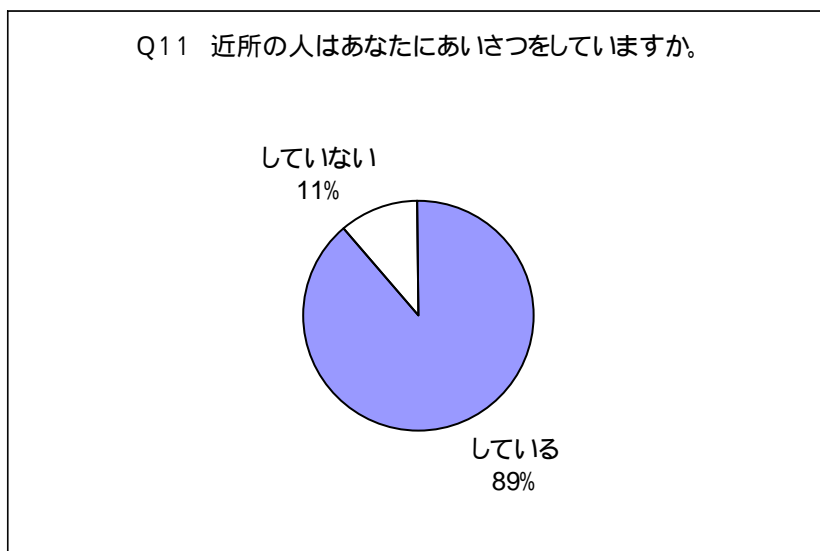
あなたは近所の人にあいさつをしていますか。

あいさつを「している」人は217人。94.3%の人があいさつを交わしており、地域でのつながりの「一歩」ができています。心強い結果となりました。



Q11 近所の人からのあいさつ
近所の人、あなたにあいさつをしていますか。

近所の人からあいさつをしてくれると答えた人は、204人88.7%です。この割合も高いのですが、子ども自身が「あいさつしている」割合よりも少し低く、大人はあいさつしてくれないという、子どもにとってさみしい状況が5.6%あることが考えられます。



Q12 保護者の働く姿1

あなたは、親（保護者）が働いているところを見たことがありますか。

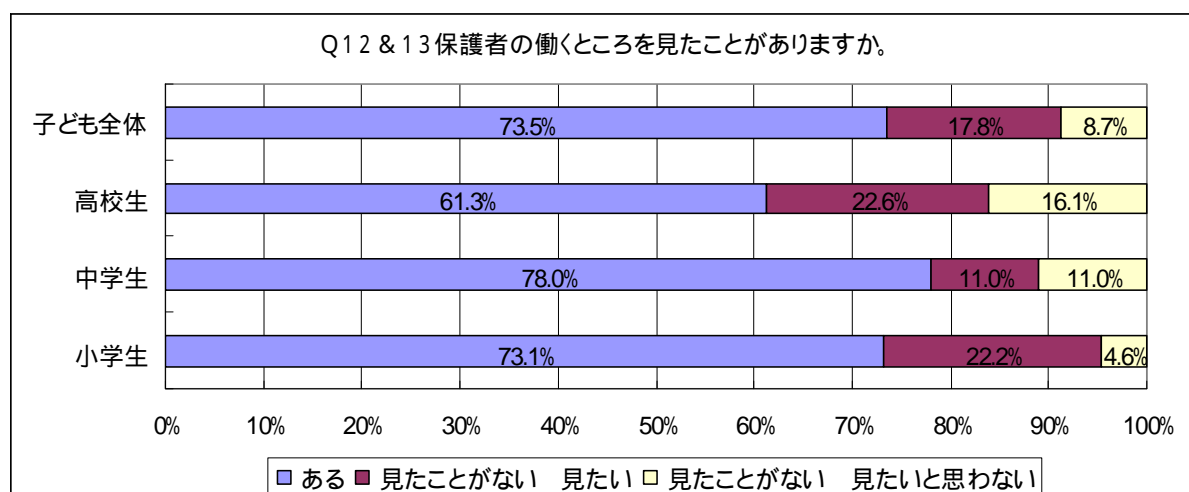
Q13 保護者の働く姿2

Q12で「ない」と答えた人にききます。親（保護者）が働いているところを見たいですか。

73.5%の人が、見たことがあると答えています。

校種別では、高校生の場合親が働いているところを見たことがあるのは61.3%と低く、中学生と小学生はそれぞれ78%、73.1%と高い状況です。

保護者が働く姿をみたことがない人61人のうち、「見たい」と答えた人は67.2%でした。小学生では、見たい人は82.8%と高い割合であり、ニーズがあると考えられます。



<まとめ>

今回のアンケートでは、モニターのみなさんが、とても活発に活動し、元気な様子がかがえました。

子ども条例や権利の学びについては、約半数のモニターが知っていて、認知度や学びの経験が高い割合であることがわかりました。そして、やはり学校での取り組みが重要であり、今後さらに子ども・家庭局が学校と協力していくことが大切です。

イベントなどへの参加の意識については、やってもいいと思う人が7割前後、同様に、地域の活動に参加したことがある人が7割近くあり、子どもたちが元気で積極的であることがわかりました。さらに、8割以上が何かの夢を持ち、9割以上が近所の方とあいさつをしていることは、これからもそうあってほしいと願う結果でした。

保護者の働く姿については、見たいというニーズがあることもわかりました。企業活動の一環として親子社内見学や親子の交流促進などの取組は、家庭内の理解と子どもの社会勉強として有益であると考えられます。

キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。